

建礼門の墓股(かえるまた)



外

建礼門は京都御所の南に開く正門で、構造としては檜皮葺の切妻屋根を持つ四脚門です。

もともと建礼門は平安時代以来内裏の南門の名で、平清盛の娘で安徳天皇の御生母の平徳子は建礼門院と号されましたが、その号(女院号)はこの門の名に由来します。

建礼門の柱にわたした化粧梁の上には、下の写真のような華麗な装飾を施した墓股かえるまたがあります。①と②は門の外側から、③と④は内側から見られます。これらは中国の仙人を表しています。

墓股とは、上下の横材の間に置いて荷重を支える束の一種で、カエルが脚を広げた姿に似ていることから、墓股と呼ばれていますが、彫刻が付されてそれが段々複雑化しました。



観 殿



① 黄初平



② 巨霊人



③ 費長房



④ 老亀